

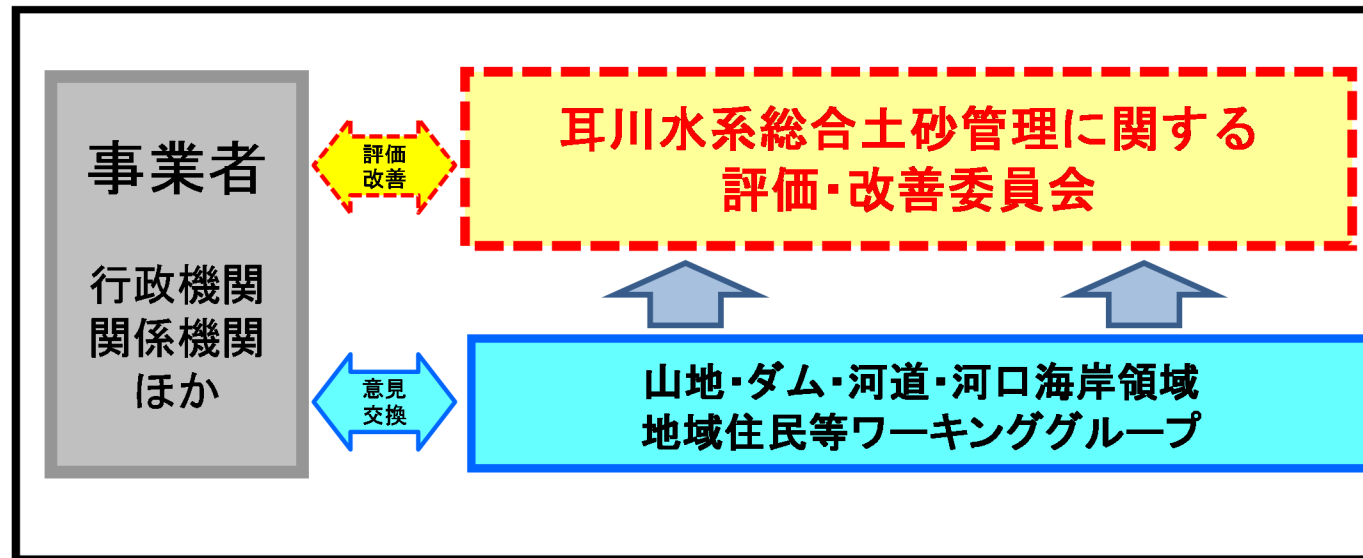
耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

第14回 ワーキンググループ議事要旨及び評価結果等

目 次

ワーキンググループの概要.....	1
<第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 議事要旨>	
1. 議事次第.....	2
2. 議事要旨.....	4
3. WGでの意見を踏まえた「問題・課題評価シート」及び「耳川通信簿」.....	8
4. 開催状況.....	14
ワーキンググループ アンケート結果.....	15

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 ワーキンググループの概要



◆ワーキンググループの目的

- ・モニタリングの結果や、各種事業の取り組み状況について、流域の地域住民や民間団体の代表者と意見交換を行い、事業者側の調査だけでは把握できない、より生活に密着した環境や景観などの変化について意見をいただくと共に、総合土砂管理上の問題・課題に対し、地域住民の視点で評価していただくもの。
- ・いただいた意見等は、評価・改善委員会において参考とする。

ワーキングの進め方



耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

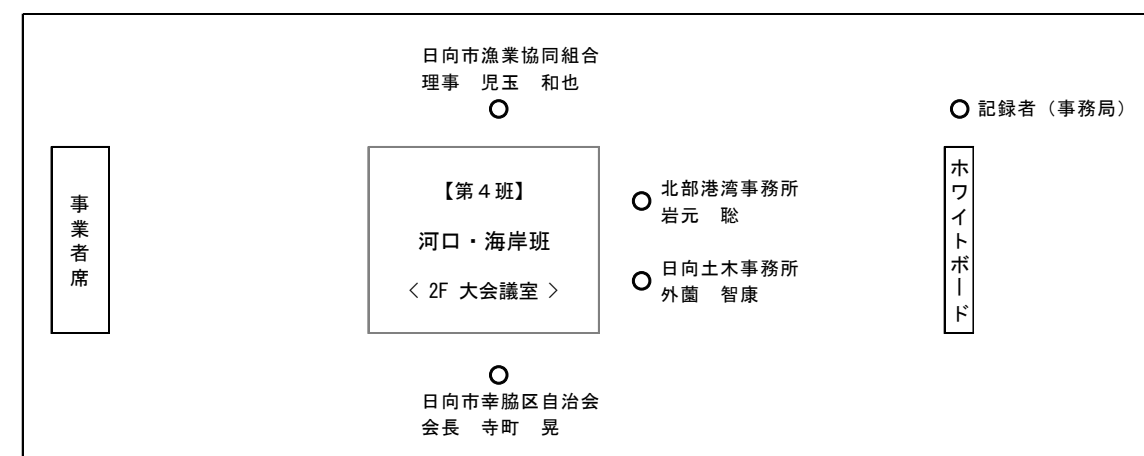
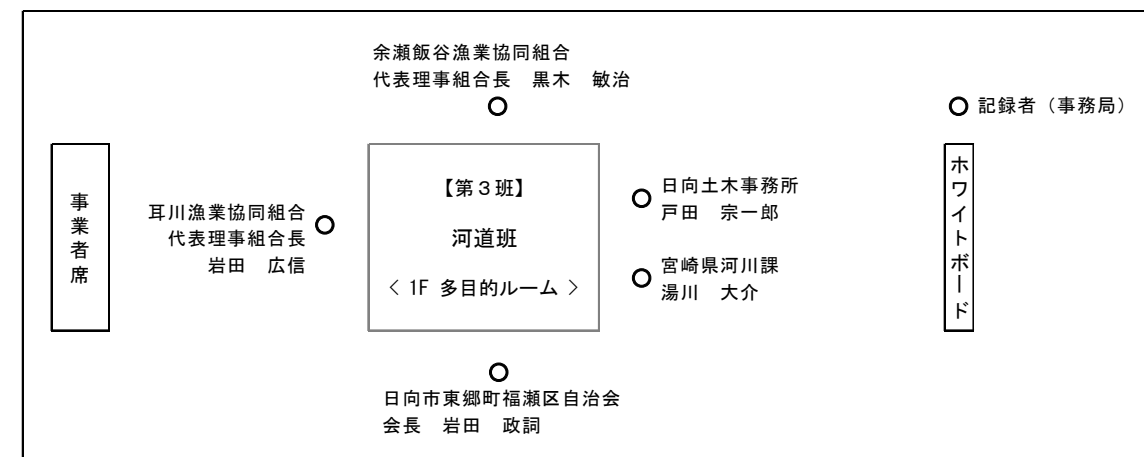
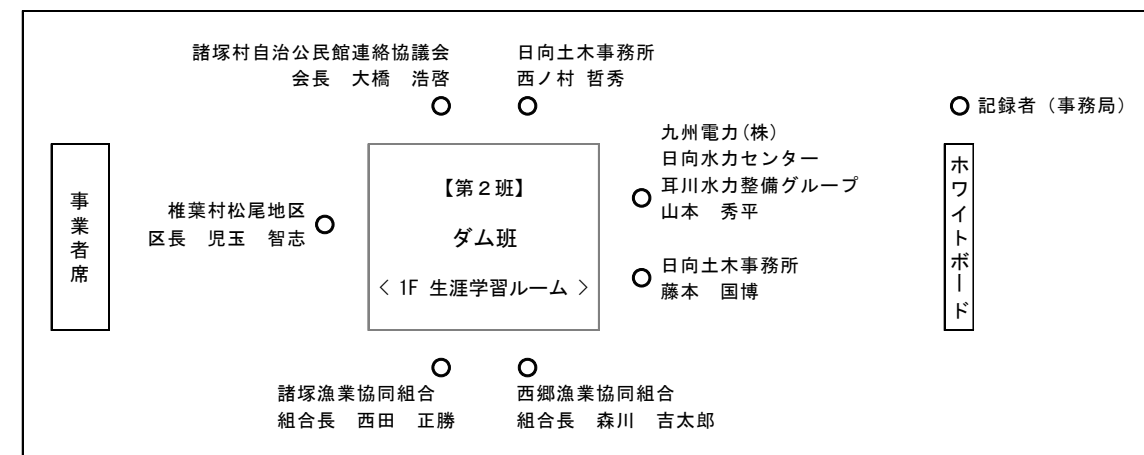
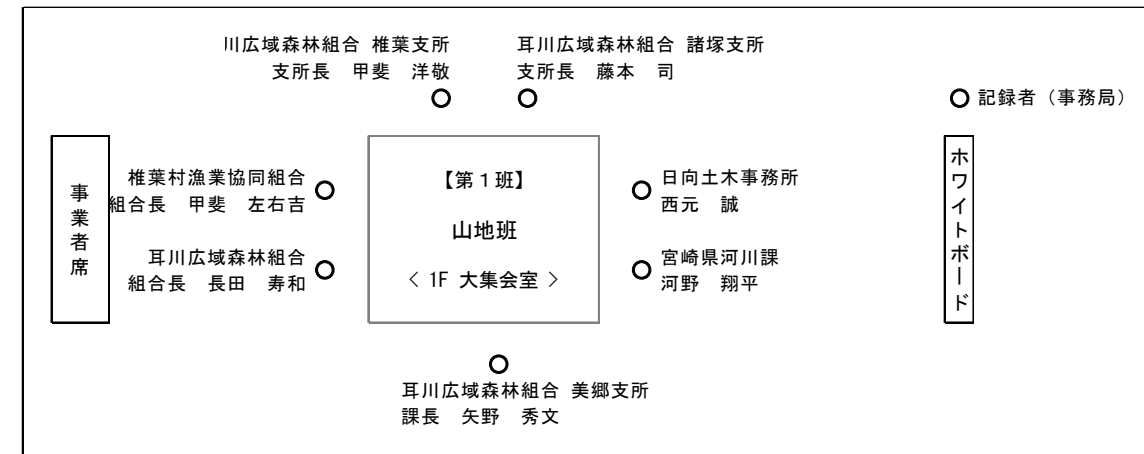
第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ

日時 : 令和8年3月16日(月)
13:30 ~ 17:00
場所 : 美郷町西郷ニューホープセンター

議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 耳川水系総合土砂管理計画について
5. 耳川水系における取組状況の説明(情報提供)
6. 第14回評価・改善委員会(令和7年7月)での指摘と回答等
7. 令和7年度のダム通砂運用(速報)について
8. 今年度の耳川流域の概況
9. グループ討議
(耳川の取組み状況の説明及び評価に対する意見のとりまとめ)
10. 全体発表
11. アンケート
12. 閉会

配置図



第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 出席者名簿

<委員会>						領域				<事業者>					
区分	所属	役職名	氏名	備考		【第1班】 山地班	【第2班】 ダム班	【第3班】 河道班	【第4班】 河口・海岸班	区分	所属	役職名	氏名	備考	
1	関係機関	日向市漁業協同組合	理事	児玉 和也					○	1	関係行政機関	宮崎北部森林管理署	総括治山技術官	石本 敏隆	
2	関係機関	美幸内水面漁業協同組合	代表理事組合長	黒木 隆太	欠席				○	2	関係行政機関	宮崎北部森林管理署	総括森林整備官	本田 末広	欠席
3	関係機関	耳川漁業協同組合	代表理事組合長	岩田 広信				○		3	関係行政機関	宮崎北部森林管理署 上椎葉森林事務所	森林官 事務取扱	宮川 茂則	欠席
4	関係機関	余瀬飯谷漁業協同組合	代表理事組合長	黒木 敏治				○		4	関係行政機関	宮崎北部森林管理署 東郷森林事務所	森林官 事務取扱	山川 祐一	欠席
5	関係機関	西郷漁業協同組合	代表理事組合長	森川 吉太郎			○			5	関係機関	九州電力(株) 日向水力センター 耳川水力整備グループ	副センター長兼 グループ長	古庄 龍悟	
6	関係機関	諸塚漁業協同組合	組合長	西田 正勝			○			6	関係機関	九州電力(株) 日向水力センター土木グループ	グループ長	鮫島 達郎	
7	関係機関	椎葉村漁業協同組合	組合長	甲斐 左右吉		○				7	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課	課長	藤本 国博	
8	関係機関	耳川広域森林組合	代表理事組合長	長田 寿和		○				8	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	リーダー	外菌 智康	
9	住民代表	日向市東郷町福瀬区自治会	会長	岩田 政詞				○		9	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	主任技師	戸田 宗一郎	
10	住民代表	日向市東郷町福瀬区	代表	新名 敏文	欠席			○		10	関係行政機関	日向土木事務所 道路課 道路保全担当	主査 (代理)	原田 浩幸	
11	住民代表	日向市幸臨区自治会	会長	寺町 晃					○	11	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 砂防担当	リーダー	西元 誠	
12	住民代表	美郷町峰区	区長	黒木 良昭	欠席			○		12	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 ダム担当	リーダー	西ノ村 哲秀	
13	住民代表	美郷町和田区	区長	岩原 米造	欠席			○		13	関係行政機関	日向土木事務所 諸塚駐在所	主査 (代理)	井上 太介	
14	住民代表	美郷町坂本区	区長	笹村 芳秋	欠席			○		14	関係行政機関	日向土木事務所 椎葉駐在所	所長	小泉 尋和	
15	住民代表	美郷町下区	区長	甲斐 勇起	欠席			○		15	関係行政機関	北部港湾事務所 工務課	工務課長	岩元 聡	
16	住民代表	美郷町花水流区	区長	池田 忠	欠席			○		16	関係行政機関	宮崎県 企業局 北部管理事務所	副所長	轟木 政広	
17	住民代表	女性の輪	代表	藤田 美智子	欠席			○		17	関係行政機関	東臼杵農林振興局 林務課 林政担当	リーダー	戸田 てつお	
18	住民代表	諸塚村自治公民館連絡協議会	会長	大橋 浩啓			○			18	関係行政機関	東臼杵農林振興局 森林土木課 治山担当	リーダー	鬼束 賛	
19	住民代表	椎葉村尾向地区	区長	尾前 亨昭	欠席		○			19	関係行政機関	東臼杵農林振興局 森林土木課 森林路網担当	リーダー	安藤 基司	欠席
20	住民代表	椎葉村松尾地区	区長	児玉 智志			○			20	関係行政機関	宮崎県 農政水産部 水産政策課 漁村振興担当	リーダー	岡崎 敬	欠席
21	関係機関	耳川広域森林組合 椎葉支所	支所長	甲斐 洋敬		○				21	関係行政機関	宮崎県 農政水産部 漁業管理課 資源管理担当	リーダー	長野 昌子	
22	関係機関	耳川広域森林組合 諸塚支所	支所長	藤本 司		○				22	関係行政機関	東臼杵農林振興局 諸塚駐在所	所長	上村 政弘	
23	関係機関	耳川広域森林組合 美郷支所	課長 (代理)	矢野 秀文		○				23	関係行政機関	東臼杵農林振興局 椎葉駐在所	所長	河野 淳二	
										24	関係行政機関	日向市 建設部 建設課 土木建設係	技師 (代理)	松木 晴秀	
										25	関係行政機関	日向市 市民環境部 環境政策課 環境公害係	課長補佐 兼係長	東村 光教	
										26	関係行政機関	日向市 農林水産部 林業水産課 水産振興係	係長	糸平 和紀	
										27	関係行政機関	日向市 農林水産部 農業畜産課 農村整備係	係長	直野 将司	
										28	関係行政機関	日向市 上下水道局 水道課浄水係	課長補佐 兼係長	黒木 郁志	
										29	関係行政機関	日向市 農林水産部 林業水産課 林業振興係	係長	大山 晋司	
										30	関係行政機関	日向市 総務部 防災推進課 防災管理係	係長	黒木 孝亮	
										31	関係行政機関	椎葉村 建設課 道路管理グループ	課長補佐兼 グループ長	椎葉 貴幸	
										32	関係行政機関	椎葉村 農林振興課 林業振興グループ	グループ長	那須 晋太郎	
										33	関係行政機関	諸塚村 産業戦略課	課長補佐	藤本 菜美	欠席
										34	関係行政機関	諸塚村 建設環境課	課長補佐	小川 義宣	
										35	関係行政機関	美郷町 農林振興課 林政担当	主査	中村 義明	欠席
										36	関係行政機関	美郷町 建設課 管理担当	主事	海野 紗香	欠席

<事務局>						領域			
区分	所属	役職名	氏名	備考		【第1班】 山地班	【第2班】 ダム班	【第3班】 河道班	【第4班】 河口・海岸班
1	関係行政機関	宮崎県 県土整備部 河川課 計画調査担当	主幹	湯川 大介				○	
2	関係行政機関	宮崎県 県土整備部 河川課 計画調査担当	主任技師	河野 翔平		○			

2. 議事要旨

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【山地班】 議事要旨		
項目	委員からの意見内容	事務局の回答内容
(1) 崩壊地からの土砂流出状況	① 崩壊面積が少ないのが望ましいことは理解できるが、最大日流入量との相関関係（兼ね合い）はどのように評価に反映されているのか。	① 少雨でも裸地が拡大すれば悪化し、大雨でも崩壊しなければ改善となる。この関係を表現するため、裸地面積をダム流入量で割り戻した値を用いている。
	② 水位の低下によりダム湖内の土砂移動が発生し、既存の堆積量の変動（減少）する場合、それをどのように評価に反映しているのか。	② 毎年台風期明けに実施する深淺測量の結果を前年度と比較することで、貯水池全体における土砂の増減量を算定し評価している。
	③ シルトは発電と共に取水口から取り込まれ、下流へ流出し続けているため、堆砂量がゼロになることはないのではないか。	③ 分類上シルトも土砂に含むが、細かいシルト系はダム湖内に留まらずゲート操作等で海まで流出するため、本指標では比較的粒径が大きく、堆積して流動しない土砂を対象としている。
	④ 平成15年に堆砂量が大きく減少している箇所があるが、これは人為的なものによるものなのか。	④ 平成15年度から測量手法をマルチビーム方式に変更したことによるものであり、計測技術の変化に伴う数値の変動である。
	⑤ 河道縦横断について、下流域の狭い箇所ばかりを評価対象とするのは、評価のあり方として適当ではない。	⑤ 今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑥ 河口部では、今年度は土砂を全く浚渫していないのか。	⑥ 航路確保のために河口部の限定された場所で浚渫を行っているが、実施箇所は船の通行に支障が出る場所に限定されている。
(2) 土石流等の土砂災害の発生状況	事務局案で了承する。	
(3) 自然景観	事務局案で了承する。	
(4) 生物生息生育環境の変化	⑦ 今年のシカの生息状況は例年通りだが、イノシシは減少している。捕獲数は例年の3分の1にも満たない状況である。原因としては、豚熱（CSF）感染の影響が第一に考えられるが、役所からの正式な回答は得られていない。	⑦ 今後の評価の参考にさせて頂く。
(5) 産業基盤の状況	事務局案で了承する。	
(6) 渇水緩和機能の状況	⑧ 近年の集中豪雨や渇水など気象条件が変わってきているため、昔の状態を維持することが厳しいところもあると思う。	⑧ 今後の評価の参考にさせて頂く。
(7) 洪水緩和機能の状況		
(8) 砂防施設容量	⑨ 砂防ダムの堆積については一部にとどまらず、椎葉村内でもかなりの堆積が見られる施設が多いと思われる。土砂の処分地の有無や予算の問題が大きく関わっている。盛り土に関する規制も厳しくなっていると聞いており、処分地の問題が解決しない限り、ほとんどの砂防ダムで今後も同様の状況が続いていくと考えられる。	⑨ 今後の評価の参考にさせて頂く。
領域の目標に対する評価	事務局案で了承する。	

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【ダム班】 議事要旨

項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(9) 貯水池末端部 治水安全度	①	溝堀工事を実施したところは、本年度は降雨が少なかったため、掘削した箇所がそのまま残存している状態である。今後の対応として、九州電力は当該箇所の河道の整備を実施する計画があるのか、その方針を確認したい。	①	今後は、出水時の作用を最大限に活用し、側岸侵食を誘発・期待するような工事等を必要に応じて計画を検討していく考えである。
	②	ここ半年ほどの間に、西郷発電所の前面において中州（砂州）の形成が確認されている。また、若宮地区の下流部や立石橋の直下においても、同様に土砂の堆積が進行している状況である。	②	今後の評価の参考にさせて頂く。
(10) 利水容量		事務局案で了承する。		
(11) 取水機能の維持	③	天包地区については、いろいろな対策が行われているが、十根川からの土砂流入が抑えきれないため、岩屋戸ダムでは悪い状態が続いている。何もしなければ、結局評価としてはずっと悪い状況が続くと思う。	③	十根川筋は令和4年台風により甚大な被害を受けたが、災害復旧工事を通じて河岸の侵食を抑える対応を行っている。山地部については、村や振興局で治山対策が進められており、崩壊地からの土砂供給が抑えられていけば、少しずつ落ち着いてくると考えている。
	④	支流から出た土砂で川底が上がり、増水した際に護岸が削り取られるという、二次災害が繰り返されているのが現状である。川底の高まりを解消しない限り、同じ問題が堂々巡りになってしまう。 山瀬川谷には多額の建設費をかけているが、上流の伐採の影響で山の保水力が落ち、凄まじい量の土砂が谷を壊しながら恵後の崎まで流れ込んでいる。土木工事だけでなく、植林・造林による保水力の確保が重要だと考えている。	④	今後の評価の参考にさせて頂く。
(12) 放流設備機能 の維持		事務局案で了承する。		
(13) 利水設備機能 の維持				
(14) 生物生息生育環境 の変化	⑤	椎葉以外の5組合で、九州電力の魚類調査を視察した。その際、濁りがあるなかでもアユなどが生息している状況を確認した。	⑤	今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑥	令和6年度の評価分であるため修正はできないが、現状（R7年度）の評価でいくとそれなりに良くなってきている。	⑥	今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑦	台風14号が来襲する1週間前には1,000尾ほど捕獲した。昨夏のモニタリングに立ち会った際、恵後の崎付近にはかなりの魚が確認された。食み跡については、以前に比べると少ない状況であった。	⑦	今後の評価の参考にさせて頂く。
(15) 生物生息空間の 連続性	⑧	灯台付近まで粘土シルト（泥）が堆積しており、余瀬飯谷や美幸漁協から苦情が出ている。堤防付近は水深が浅くなっており、船を着岸させられない状況にある。	⑧	今後の評価の参考にさせて頂く。
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【河道班】 議事要旨

項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(16) 付着藻類の変化		今年度評価なし。		
(17) 河川景観の変化	①	集落周辺の河川状況は記録として残っていない。住民代表としては集落周辺の河川の変化に高い関心を持っており、集落近くの河川状況（特に築堤が整備されていない箇所）を観測地点として追加いただきたい。	①	今後の評価の参考にさせて頂く。
(18) 生物生息生育環境の変化	②	大内原ダム下流域では、通砂の影響もあり砂利の堆積が進んでいる。カマツカは本来、砂利の多い場所に生息すると認識しているが、現状は減少傾向にあるとのことで違和感がある。また、秋口の Ayu については「かなりの漁獲量があった」との話も聞いている。これらのデータは、漁協が県に提出している報告資料を基に作成されたものか。	②	本データは九州電力の調査結果に基づくが、手法や時期により Ayu が捕獲されなかった可能性がある。状態評価は「全個体数に占める割合」で算出されるため、河川全体の個体数が増加している場合、Ayu やカマツカの個体数自体が増えていても、算出される割合は実態（漁獲量）と乖離する可能性がある。
	③	産卵場を整備しているが、去年は台風の影響がなかったこともあり、時期が来ると Ayu は順調に産卵のため降下していった。今年の遡上状況を見ても、かなりの個体数が確認されている。 秋季調査が10月の最盛期に実施されている点を踏まえると、その結果をもって「悪い状態」と結論付けるのは、実態を過小評価していると思われる。	③	頂いた意見を基に「魚類」の評価を修正させていただく。(状態評価：c→b)
(19) 瀬・淵の状況	④	淵の深さについては把握されているのか。	④	水深2m程度の地点を「淵」として調査を実施しているが、全箇所の測量は困難である。そのため、代表的な箇所については測量を行い、経年変化を確認している。基本的には目視調査により、水深が約2mある箇所をカウントしている。
	⑤	「道路上からの目視」が主であるとの説明だが、実際に河川内に入ると印象は大きく異なる。船上から「深く淀んでいる（淵）」ように見える場所でも、実測すると意外に浅いケースが多々あるためだ。こうした「目視による主観」を補完するため、ドローンによる写真観測を実施すれば、評価結果も変わるのではないだろうか。	⑤	瀬・淵の定義および計数方法については、現在見直しを検討している。特に「連続する小規模な瀬」の扱いについて指摘を受けており、今後は文献の精査や学識者へのヒアリングを通じて、新たな判定基準（ルール）を検討する予定である。7月の評価・改善委員会にて報告し、了承が得られれば、次回以降の評価からは見直し後の手法に基づいた結果を報告できると考えている。
	⑥	生物の生息環境を評価する上で、瀬・淵の形状把握は重要だが、川幅についてはどう捉えているのか。昔に比べて民地が削られて広がった場所もあれば、逆に狭まった場所もある。モニタリング項目を見直す際、こうした川幅の変化も指標として調査をお願いしたい。	⑥	今後の評価の参考にさせて頂く。
(20) 橋脚の安定性		事務局案で了承する。		
(21) 護岸基礎部の安定性		事務局案で了承する。		
(22) 取水の安定性		事務局案で了承する。		
(23) 治水安全度		事務局案で了承する。		
(24) 氾濫発生時の被害状況		事務局案で了承する。		
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【河口海岸班】 議事要旨			
項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容
(25) 生物生息生育環境の変化	①	令和7年度の漁獲量増加は、漁法の転換（ヒラメ網からタチウオ・サゴシ狙いの流し網へ）と、南方系魚種の異例な来遊が重なった一時的な要因によるものである。 今年の1月～3月の漁獲量は前年同期の1/5程度に急減しており、依然として魚の来遊状況に左右される不安定な状態が続いている。そのため、漁獲量の評価は「改善傾向」ではなく「維持傾向」とするのが妥当である。	① 頂いた意見を基に「漁獲量（海域）」の評価を修正させていただく。（方向性評価：A→B）
	②	調査地点から少し南方に下った地点までを確認したところ、地型に関しては若干の拡大傾向が見られる。しかし、耳川の河口に近づくにつれて、かつては一面に広がっていたワカメやカジメなどの海藻類は全く確認できない状況にある。30～40年前まではどこを見てもカジメ場であったが、現在は水中ドローンによる調査においても、沖の漁礁を含め海藻類は一切育っていないことが判明している。	② 今後の評価の参考にさせて頂く。
(26) 防災機能の維持		事務局案で了承する。	
(27) 親水空間の確保		事務局案で了承する。	
(28) 港湾施設の機能維持		事務局案で了承する。	
(29) 治水安全度		事務局案で了承する。	
(30) 船舶の航行（操業上）の安全確保		事務局案で了承する。	
(31) 海岸環境の変化		事務局案で了承する。	
(32) 漁業の操業環境		事務局案で了承する。	①と同様に、「漁獲量（海域）」の評価を修正させていただく。（方向性評価：A→B）
(33) 氾濫発生時の被害状況		事務局案で了承する。	
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。	

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【その他意見】 議事要旨	
項目	委員からの意見内容
(1) 海側・河口側の対策	河口から海にかけて耳川からの土砂が堆積して浅瀬化しており、大波が立つため漁船の転覆事故の危険性が極めて高い。また、漁礁も土砂（ヘドロ）で埋没し機能していない。被害の多くが河口に集中している現状に対し、九州電力による調査には感謝しつつも、具体的な「海側・河口側の対策」を早期に実行するよう強く要望する。
(2) 山地における作業道と土砂流出対策の徹底	上流域での伐採作業において、コスト削減を優先して重機で急傾斜地に作業道を開設し、その後の復旧や横断溝（排水設備）の設置が不十分なため、降雨のたびに法面崩壊や土砂・濁水が川に流出している。そのため、県の林務課は指導を徹底していただきたい。
(3) 下流への土砂堆積と悪循環の解消	漁協として最大の死活問題は「川の濁水と砂利の堆積」である。山からの土砂が下流に堆積し、出水のたびに河床が上昇して川が浅くなる悪循環に陥っており、対策を検討してほしい。
(4) ドローン活用による客観的評価の導入	漁協へのヒアリング（アンケート）評価について、組合員が全河川を網羅的に目視確認することは困難である。西郷発電所前の砂州の位置が年々変動している等の実態を正確に把握するために、ドローン等の技術を活用し、河川の状況を毎年記録して継続的に評価してほしい。

3. WGでの意見を踏まえた「問題・課題評価シート」及び「耳川通信簿」

WG後の評価結果

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価							
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2			
						方向性	状態			方向性	状態				
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△			
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅の範囲内を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	A	b			事務局案で了承する。	A		b		
		5.河道縦横断	7	主	状態は基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	-	b				事務局案で了承する。		-	b	
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	状態は基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	-	b						事務局案で了承する。	-	b
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c							事務局案で了承する。	C
	(2)土石流等の土砂災害の発生状況	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。			B			b
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18												
	(3)自然景観	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△	事務局案で了承する。	A	c	△			
		17.写真観測(親水景観)	21		前年度と比較して、大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.8点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a			事務局案で了承する。	B		a		
		30.ヒアリング	28		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-				事務局案で了承する。		-	-	
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、全ての森林管理者から「維持傾向」の回答を得たことから、「維持傾向」と評価される。状態は、一部の森林管理者から「悪い状態」と回答を得たことから、「悪い状態」と評価される。	B	c	×	イノシシは減少しており、捕獲数は例年の3分の1にも満たない状況である。			B	c	×	
	(5)産業基盤の状況	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B		b	△		
		27.流木処理実績	35		(参考:令和6年度評価)状態は、基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a			事務局案で了承する。	-	a			
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c				事務局案で了承する。	A		c	
		16.路網密度	37		(参考:令和6年度評価)路網密度の方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値(39.7m/ha)を上回っていることから「良い状態」と評価される。	B	a					事務局案で了承する。		B	a
		30.ヒアリング	38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c							事務局案で了承する。	C
(6)湯水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B				b		△
(7)洪水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b			△		
(8)砂防施設容量	23.写真観測(砂防施設)	50		前年度と比較すると、内の八重川で余裕率が減少していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、内の八重川において、水通し天端の上まで堆積していることから「悪い状態」と評価される。	C	c	×	椎葉村内でもかなりの堆積が見られる施設が多いと思われる。土を捨てるところは行政で見つけてほしい。	C	c	×				

着色凡例

黄色	: 治水面 (防災面)
水色	: 利水面 (水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
ダム領域	(9)貯水池末端部(貯水池への河川流入部)治水安全度	12.ダム堆砂	2		7ダムの貯水池末端部の治水安全度に関する総合評価の結果、方向性は「維持傾向」、状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△	清堀工事を実施しているが、今年度は雨が無くそのまま残っている。来年がどうなるかが心配している。	B	b	△	
	(10)利水容量	12.ダム堆砂	13		7ダムの利水容量に関する総合評価の結果、方向性は「維持傾向」、状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
	(11)取水機能の維持	12.ダム堆砂	20		7ダムの取水機能の維持に関する総合評価の結果、方向性は「維持傾向」、状態は「良い状態」と評価される。	B	a	○	十根川からの土砂流入が多いので、岩屋土ダムでは悪い状態が続いている。保水力を高める植林、造林が大事である。	B	a	○	
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	26		(参考:令和6年度評価) 基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。	-	a	○	
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-			今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-		-
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	26		(参考:令和6年度評価) 基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。	-	a	○	
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-			今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-		-
	(14)生物生息環境の変化	1.水質	33		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	×	事務局案で了承する。	今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	×
		6.魚類	40		全体の種数・個体数に大きな変化がみられないことから「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c			B	c		
		7.底生動物	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-			令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-	
		8.付着藻類	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-			令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-	
		30.ヒアリング	43		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-			ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-	
		6.漁獲量(内水面)	44		(参考:令和6年度評価) 漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c			※5組合参加して九電と魚類調査を実施し、水が濁っている中でもアユを確認した。現状(R7年度)の評価ではそれなりに良くなってきている。	C	c	
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	47		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。	灯台付近まで粘土、シルト(泥)が堆積しており、下流漁協から苦情がでている。堤防付近は水深が浅くなっており、船を着岸させられない状況にある。	B	c	
		6.魚類	49		全体の種数・個体数に大きな変化がみられないことから「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c			B	c		
7.底生動物		—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-	令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外			-	-		

【ダム領域目標】
土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。

ダム領域評価:『△』

【評価コメント】
令和7年度は、漁獲量(内水面)に関して「悪化傾向」、また、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料)、魚類に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価																			
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2															
						方向性	状態			方向性	状態																
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-																			
		30.ヒアリング	5		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-	-																			
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7		自然景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△																			
		17.写真観測(親水景観)	7		親水景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートにより状態評価を行った結果、全体の平均は2.7点となり総合的に「良い状態」と評価される。	B	a	△																			
	(18)生物生息生育環境の変化	1.水質	40		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-																				
		2.河床材料	47		河床材料は、各河川区間ともに大きな変化はみられないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c																				
		4.河道形状	49		瀬・淵の数は、至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	B	b																				
		6.魚類	53		アユやカマツカの個体数については、地点によって違いはあるものの至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内の地点が多いこと、アユの産卵床も至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c																				
		7.底生動物	60		(参考:冬季データ 令和6年度評価) 地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の増加傾向が確認されたものの、全体でみると至近3年間と概ね同程度であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-	△																			
		8.付着藻類	62		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-																				
		9.河岸植生	63		(参考:令和5年度評価) ツルヨシ群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c																				
		29.水質、底生動物	65		(参考:令和5年度評価) 方向性は、至近3年間(令和2年度～令和4年度)の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a																				
		30.ヒアリング	67		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-																				
		6.漁獲量(内水面)	68		(参考:令和6年度評価) 方向性は、至近3年間(令和3年度～令和5年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c																				
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	71		瀬・淵の数は、至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	B	b	△																			
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	73		状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	-	b	△																			
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	73		橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-																				
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	78		横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△																			
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	78		護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-																				
	(22)取水の安定性	1.水質	84		水道原水のpHの方向性は至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅を超えるが、基準値の範囲内に収まっているため「維持傾向」、濁度の方向性は至近3年間の変動幅を下回ることから「改善方向」と評価され、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内であることから「良い状態」と評価される。濁度の状態についても、設定した基準値を下回ることから「良い状態」と評価される。	B	a																				
		5.河道縦横断	85	主	工業用取水口は安定して取水が行われており、富島幹線用水路についてもポンプアップを行わずとも安定した取水が維持されているため、「普通状態」と評価される。	-	b	△																			
		24.写真観測(取水口堆砂状況)	85		取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-																				
	(23)治水安全度	5.河道縦横断	88		河積変化率の平均は96%で「普通状態」と評価される。	-	b	△																			
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	95		河川、構造物基礎等の状況は、令和6年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-																				
(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	112		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和7年度は、浸水被害発生の可能性がある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度日最大流入量)を上回る流入量がなく、特に浸水被害は発生しなかったことから「普通状態」と評価される。	B	b	△																				
	20.写真観測(洪水時流下状況)	113		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-																					

【河道領域目標】
適切な河川管理により、
安全安心と生物多様性を
実現し、人と川が親しめる
よう、川の機能の再生を目指す。

河道領域評価:『△』

【評価コメント】
令和7年度は、河岸植生、漁獲量(内水面)、水質で「悪化傾向」、魚類、ヒアリング(河床材料、河岸植生、漁獲量(内水面))で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

その他意見:福瀬大橋下流では、4年前に浚渫していただいたが、土砂が再堆積しているため、対応をお願いしたい。
未整備箇所が多い大内原ダム下流域など、年次的な築堤整備と重点的な管理を早急に進めていただきたい。
ダムからの放流量をリアルタイムに把握することができる周知方法を検討していただきたい。

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	1. 水質（海域：出水時）	3		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△	今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△
		3. 底質（海域：出水時）	7		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		6. 漁獲量（海域）	9		至近3年間の変動幅の範囲を上回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b		漁獲量増加はヒラメ網からタチウオ・サゴン狙いへの漁法転換したためであり、1月～3月の漁獲量は前年同期の約1/5に急減している。→委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(方向性評価:A→B)	B	b	
		6. 漁獲量（内水面）	9		(参考:方向性は令和6年度評価) 至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c		事務局案で了承する。	B	c	
		7. 底生動物（海域：出水時）	11		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		10. 藻場（海域）	13		至近3年間と比較して、クロメ場の密生部分と分布範囲は維持されている。また、ヤツマタモク場は至近3年間と比較して密生範囲が拡大し、分布範囲は維持されていることから、「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	B	b		岩に砂がのっており根付かない。水中ドローンで確認しても沖の漁礁を含め海藻類は育っていない。地型に関しては若干の拡大傾向が見られる。	B	b	
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真（汀線比較）	21		(参考:令和2年度評価) 至近3年間ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。	A	a	○	事務局案で了承する。	A	a	○
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測（景観・親水）	23		令和6年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-	○	事務局案で了承する。	-	-	○
		28. 航空写真（汀線比較）	25		(参考:令和2年度評価) 至近3年間ならびに基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。	A	a		事務局案で了承する。	A	a	
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	28		状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。	-	b	△
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31		基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。	-	a	○
	(30) 船舶の航行（操業上）の安全確保	5. 河道縦横断	36		確保率は84%であり、100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	-	c	×	事務局案で了承する。	-	c	×
		25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	37		状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	-	b		事務局案で了承する。	-	b	
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	38		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		21. 写真観測（海域漂流状況）	39		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	39		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	40		至近3年間の変動幅の範囲を下回っているため「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	A	c		事務局案で了承する。	A	c	
	30. ヒアリング	41		漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c	事務局案で了承する。	C	c			
	(31) 海岸環境の変化	22. 写真観測（海岸漂着状況）	44		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△	今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	45		至近3年間の変動幅の範囲を下回っているため「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	A	c		事務局案で了承する。	A	c	
	(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量（河道・河口海岸）	48		至近3年間の変動幅の範囲を下回っているため「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	A	c	×	事務局案で了承する。	A	c	×
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	49		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	50		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	
		6. 漁獲量（海域）	51		至近3年間の変動幅の範囲を上回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b		「(25)生物生息生育環境の変化」と同様 一委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(方向性評価:A→B)	B	b	
	30. ヒアリング	52		漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c	事務局案で了承する。	C	c			
(33) 氾濫発生時の被害状況	31. 水害統計資料	54		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和7年度は、浸水被害発生可能性がある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度日最大流入量)を上回る流入量がなく、特に浸水被害は発生しなかったことから「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
	20. 写真観測（洪水時流下状況）	55		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-		

【河口・海岸領域目標】
水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。

河口・海岸領域評価:『△』

【評価コメント】
令和7年度は、ヒアリング(船舶の航行(操業上)の安全確保、漁業の操業環境)に関して「悪化傾向」、また、河道縦横断、ヒアリング(漁獲量(内水面)、漂着物量(河道・河口海岸)、船舶の航行(操業上)の安全確保、漁業の操業環境)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	: 治水面（防災面）
水色	: 利水面（水利用面）
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
△ : 普通のレベル
× : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

その他意見：海底ごみの清掃にあたって、大きい流木等は、漁師たちで対処できないため、行政で対応頂きたい。

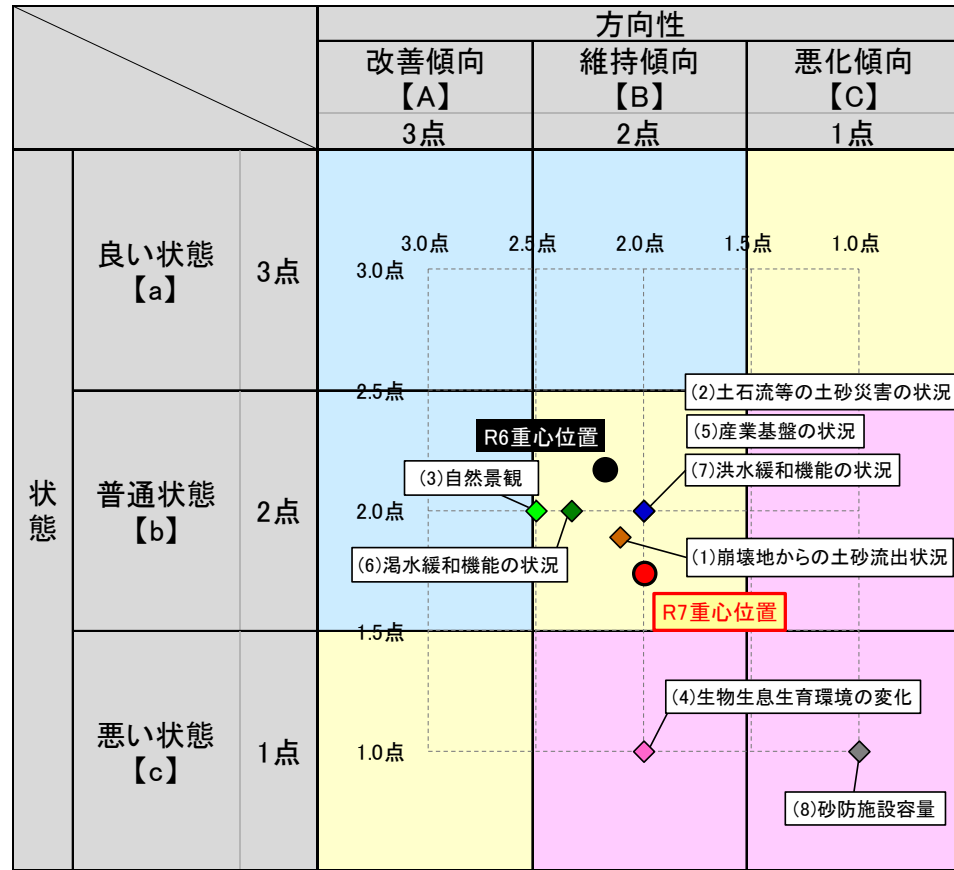
「耳川通信簿」耳川流域全体（令和7年度）

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R7		R6		R5		事務局評価	領域の評価				評価改善委員会の評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点						
資料④-1	山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	△	1	△	1	△	1	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 山地領域の得点率は38%であり、得点率の評価から令和7年度は総合的に「悪いレベル×」と評価される。令和5年度及び令和6年度を下回る得点率である。総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化、(8)砂防施設容量の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	山地領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(2)土石流等の土砂災害の発生状況	△	1	○	2	○	2		問題・課題の数	8	8	8	
		(3)自然景観	△	1	△	1	△	1		配点	16	16	16	
		(4)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点	6	10	8	
		(5)産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	38%	63%	50%	
		(6)渇水緩和機能の状況	△	1	○	2	△	1		得点率の評価	×	○	△	
		(7)洪水緩和機能の状況	△	1	○	2	△	1						
		(8)砂防施設容量	×	0	△	1	△	1						
資料④-2	ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	△	1	×	0	×	0	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ダム領域の得点率は57%であり、得点率の評価から令和7年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度、令和6年度を上回る得点率である。総合土砂管理上の問題・課題では、(14)生物生息生育環境の変化、(15)生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(10)利水容量	△	1	×	0	×	0		問題・課題の数	7	7	7	
		(11)取水機能の維持	○	2	○	2	○	2		配点	14	14	14	
		(12)放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	8	6	6	
		(13)利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	57%	43%	43%	
		(14)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
資料④-3	河道領域	(16)付着藻類の変化	—	—	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和7年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度を上回る得点率であるが、令和6年度と同じ得点率である。総合土砂管理上の問題・課題では、全ての項目で「悪いレベル×」が解消され、「普通レベル△」へと改善したことから、今後も更なる改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。	河道領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(17)河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		問題・課題の数	8	9	9	
		(18)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	×	0		配点	16	18	18	
		(19)瀬・淵の状況	△	1	△	1	○	2		得点	8	8	9	
		(20)橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率	50%	44%	50%	
		(21)護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	△	△	
		(22)取水の安定性	△	1	△	1	△	1						
		(23)治水安全度	△	1	△	1	△	1						
資料④-4	河口・海岸領域	(25)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 河口領域の得点率は56%であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度を上回る得点率であるが、令和6年度を下回る得点率である。総合土砂管理上の問題・課題では、(30)船舶の航行(操業上)の安全確保、(32)漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(26)防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27)親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28)港湾施設の機能維持	△	1	○	2	×	0		得点	10	11	9	
		(29)治水安全度	○	2	○	2	○	2		得点率	56%	61%	50%	
		(30)船舶の航行(操業上)の安全確保	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	○	△	
		(31)海岸環境の変化	△	1	×	0	×	0						
		(32)漁業の操業環境	×	0	×	0	×	0						
		【耳川水系目標】耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和7年度の耳川水系は、山地領域で「悪いレベル×」の評価となったものの、水系全体では令和6年度に次ぐ得点率であり、総合評価は「普通レベル△」の評価となった。 一方で、今年度は出水が殆どなかったが、近年は上流域や支川から大量の土砂が流入しており、関係機関へのヒアリングでは生物の生息生育環境等が悪い、との回答が多い状況が継続している。 今後は、本計画の目標である”森林とダムと川と海のつながり”をより強く意識し、ワーキングにおいては、他領域の課題も共有した上で各領域ごとの評価を行うなど、モニタリング・評価の項目、手法等の見直しについて、行動計画の見直しも含め検討していく必要がある。	耳川水系	R7	R6	R5	○ △ ×							
		問題・課題の数	32	33	33									
		配点	64	66	66									
		得点	32	35	32									
		得点率	50%	53%	48%									
		得点率の評価	△	△	△									

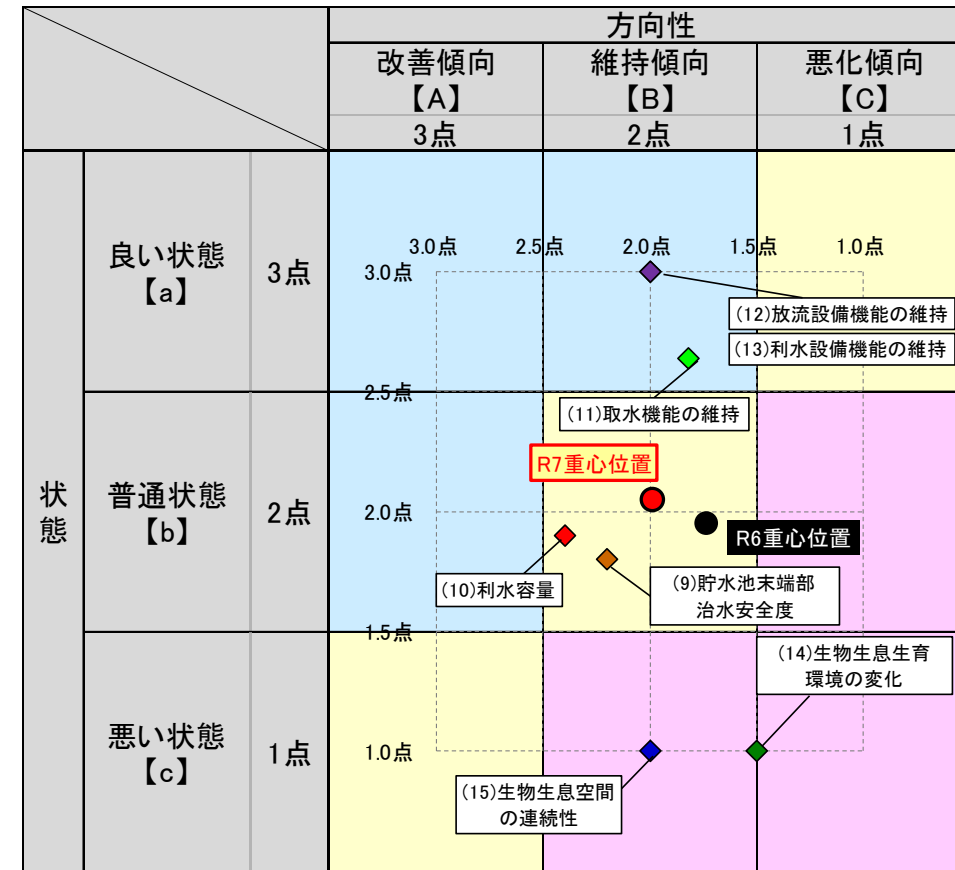
着色凡例
 : 治水面（防災面）
 : 利水面（水利用面）
 : 環境面

課題評価の凡例
○: 問題なく良いレベル
△: 普通のレベル
×: 問題があり悪いレベル

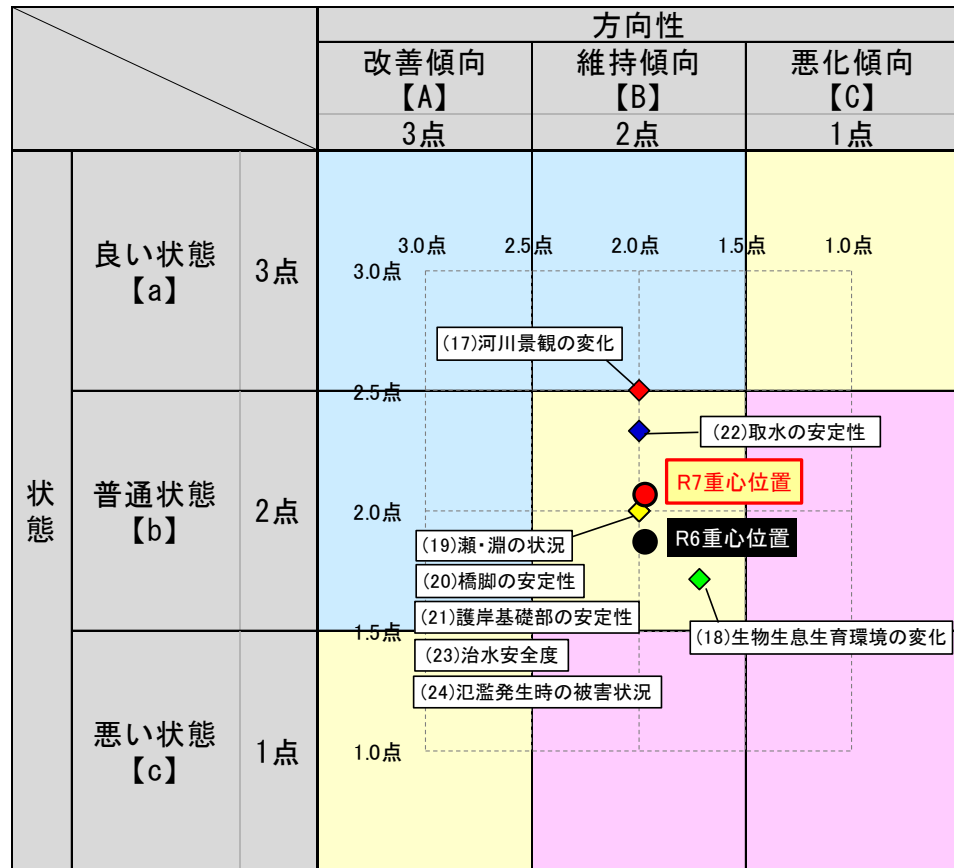
山地領域の総合評価（令和7年度）



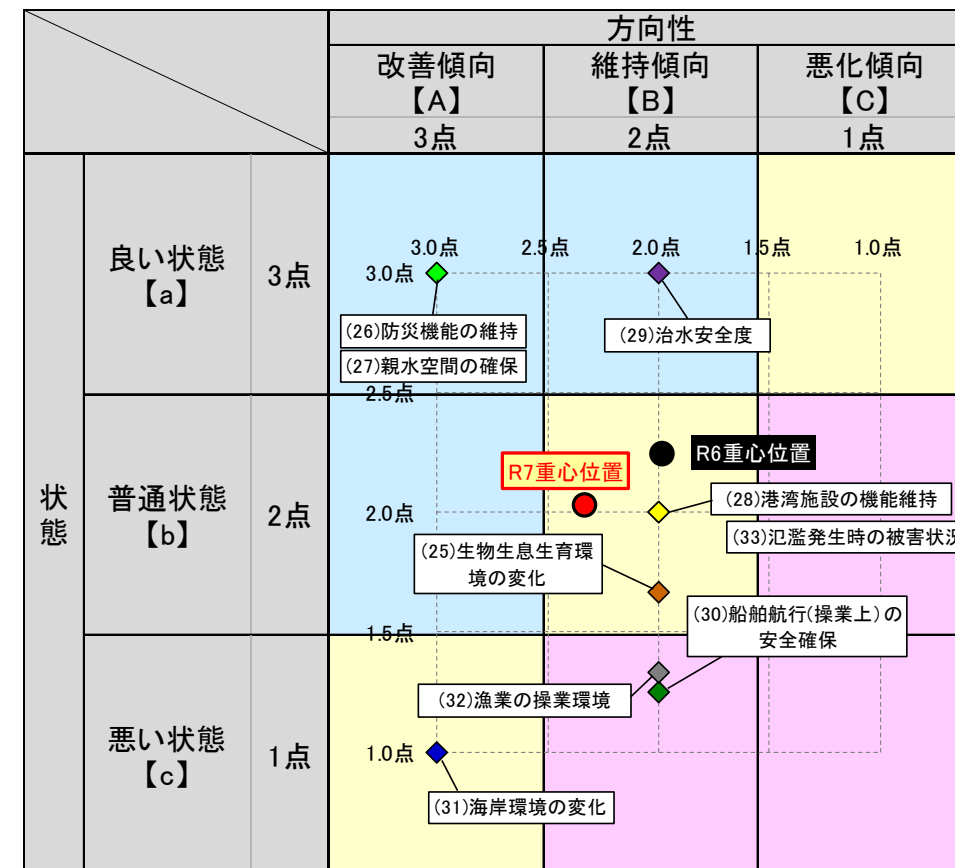
ダム領域の総合評価（令和7年度）



河道領域の総合評価（令和7年度）



河口・海岸領域の総合評価（令和7年度）



4. 開催状況（第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 令和8年3月16日 於：美郷町西郷ニューホープセンター）

<山地領域>



<河道領域>



<ダム領域>



<河口海岸領域>



ワーキンググループ アンケート結果

ワーキンググループでは、現地で参加した委員を対象としてアンケートを実施した。

1. アンケート用紙

耳川水系総合土砂管理 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ アンケート

耳川を良い川とするためのワーキンググループの活性化のため、アンケートにご協力をお願いします。

<ワーキングについて>

各質問について、該当項目に○印をつけてください。

		①	②	③	④
Q1	説明資料内容	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった
Q2	説明の仕方	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった
Q3	ワーキンググループの進め方	とても良かった	ふつう	悪かった	非常に悪かった
Q4	評価方法について	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった

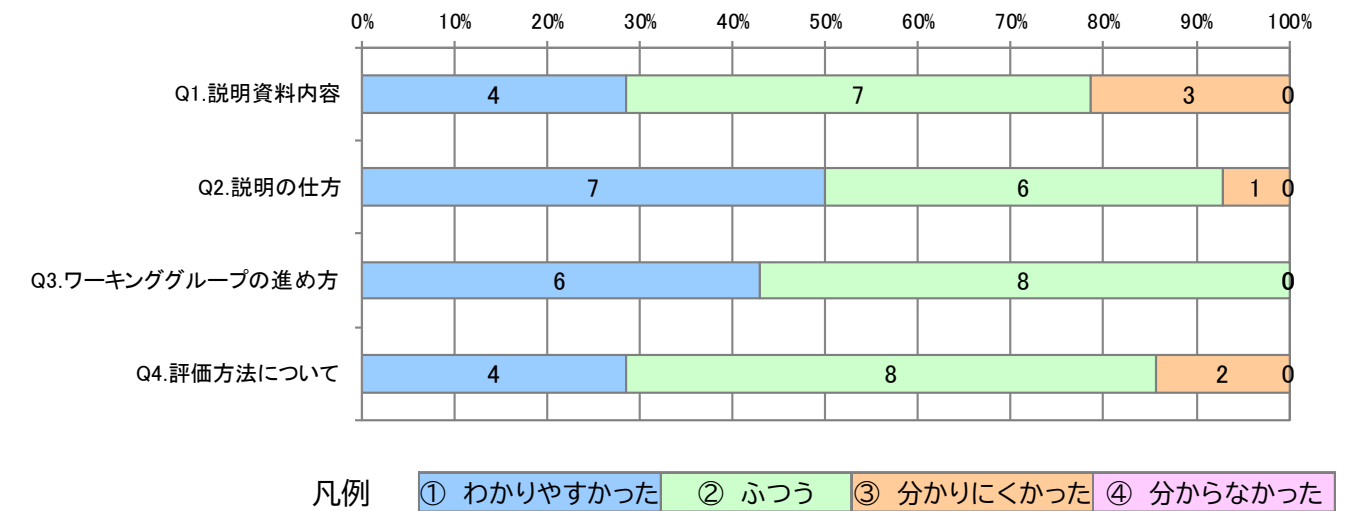
会の進め方について改善すべき事項や内容等についてアドバイスをお願いします。
(会場の設備に関する事など、なんでも構いません。)

<耳川について>

グループ討議で言いそびれたこと、事務局に伝えておきたいことなどがあればお願いします。

2. アンケート結果①：ワーキングについて

第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ アンケート集計結果



3. アンケート結果②：耳川について

会の進め方について改善すべき事項や内容等についてアドバイスをお願いします。
(会場の設備に関する事など、なんでも構いません。)

- ・評価の仕方が複雑で、資料作成や説明の仕方も難しかったと思う。
- ・会議の時間配分に工夫がほしい。
- ・評価方法については、直前3ヵ年の平均データを用いるだけでなく、せっかく過去のデータがあるので、総合的に活用すべきだと思う。
- ・初めて参加する者にとっては非常に難しく、資料が分かりにくい。
- ・WGの説明でデータの出所が不明なので、コンサルからの説明も入れて良いのではないかと思う。
- ・資料はできましたら何日か前に届くと深堀りができるのではないかと思います。
- ・河口・海岸領域のグループ討議の会場が寒かった。
- ・グループ討議の司会進行は行政、説明はコンサルさんが対応すると良いと感じた。
- ・もう少し資料が少ないと分かりやすいと思った。
- ・評価シートに同じ評価項目がある場合に判別がつくようにしてもらいたい。

グループ討議で言いそびれたこと、事務局に伝えておきたいことなどがあればお願いします。

- ・各領域の状況が分からないので全体の説明も聞きたいと思った。
- ・河口の状況を見てほしい。(砂、流木など)
- ・通砂は下流域への影響が大きい。この現状に対する改善策を真剣に取り組んでほしい。
- ・土砂の管理について万全の対策をしてほしい。
- ・山林の伐採後の作業道の取り扱いについて検討してほしい。
- ・河川状況についてドローンを使って残してほしい。
- ・今現在、市の水産林業課と共に海岸清掃の話を進めていますが、大きな流木は漁船では回収できないのが現状です。流木の回収を県の方でどうか対策していただきたいと思っています。